

ジャンボタウン誕生

「緑と太陽の文化都市」をキャッチフレーズに建設された多摩ニュータウン、この程(3月26日から)第一次入居が始まりました。将来は40万人が住むことになるというこのジャンボ団地、入居が始まったというものの、まわりはまだ工事の真さ中、ペンキ塗り立てなどまだいい方で、少しの風で砂ほこりが舞い、窓もあけられないし、洗濯物もほせないありさまです。

入居に間に合うように作られた店はスシ、ソバ、酒、本など最低生活に必要な店が一軒きり、この大消費地をひかえ色めき立ったのがセールスマン、新聞・牛乳・立さおなど車が着くと同時にお客の奪いあいです。引越しを終え、ベランダから見る景色の美しさに大人たちは疲れをいやし、子供たちは土と太陽を求めて大はしゃぎ、やっと子供らしを取り戻しました。

しかし、この「民族の大移動」で学校は間に合わず、郵便局も駄目、さらに役所も人手不足とあっては入居者も安心などしてられません。

団地から土木機械が消え、赤土が美しい緑の芝生に変わるのはまだ、ずっと遠い話のようです。

世界卓球の周辺

ものものしい警備の中、名古屋に到着した中国卓球選手団。警備陣に両脇をかかえられるように駅構内を歩む。駅からパトカーの先導で宿舎へ。宿舎周辺は完全に交通が規制され警官が10メートル置きに立つというものしき。

練習や食事に出かける時も警備陣がついてまわる。

中国卓球代表団は、

「われわれが容認できないことは、中国人民にとって、とっくにつまはじきされた蔣介石一味の人員を国際卓球連盟に引きいれようとしたことである。われわれは「二つの中国」を作るいかなる陰謀にも断固反対する」と声明文を発表。